

※資料に関するお問い合わせ先

奈良国立博物館 学芸部 情報サービス室

Tel 0742-22-4463(直通) Fax 0742-22-7221

令和元年 7 月 12 日

奈良国立博物館

特別陳列

法徳寺の仏像 ―近代を旅した仏たち―

The Buddhist Sculpture of Hōtoku-ji Temple:
A Tale of the Journey of Buddhist Divinities through Modernity

法徳寺的佛像 ―重归故土奈良的近代之旅―

호토쿠지의 불상 ―근대를 여행한 부처, 나라로 돌아오다―

プレスリリース

[1] 会 場 奈良国立博物館 西新館

[2] 会 期 令和元年 7 月 13 日(土)～9 月 8 日(日)

休 館 日 毎週月曜日、7 月 16 日(火)

※ただし 7 月 15 日、8 月 5 日、12 日は開館

開館時間 午前 9 時 30 分～午後 6 時

※ただし、金・土曜日は午後 8 時まで、

8 月 5 日(月)～8 日(木)、11 日(日・祝)～15 日(木)は午後 7 時まで、

8 月 9 日(金)、10 日(土)は午後 9 時まで

※いずれも入館は閉館の 30 分前まで

[3] 主 催 奈良国立博物館、法徳寺

協 力 仏教美術協会

[4] 観覧料金 一 般 520 円 (410 円)

大 学 生 260 円 (210 円)

※ () 内は以下の料金です。

① 責任者の引率する 20 名以上の団体

② 親子割引〔子ども（高校生以下および 18 歳未満の方）と一緒に観覧される方〕

③ レイト割引〔開館時間延長日の午後 5 時以降に観覧される方〕

※ 高校生以下および 18 歳未満の方、満 70 歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方（介護者 1 名を含む）は無料です。

※この観覧料金で、同時開催のわくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」（東新館）、名品展「珠玉の仏教美術」（西新館）・「珠玉の仏たち」（なら仏像館）・「中国古代青銅器〔坂本コレクション〕」（青銅器館）もご覧になれます。

※ 9 月 1 日(日)は、どなたでも無料で観覧できます。（関西文化の日プラス）

〔5〕出陳品 7 件

〔6〕展覧内容

法徳寺ほうとくじは、奈良市十輪院町に位置する融通念仏宗ゆうずうねんぶつしゅうの寺院です。本尊は平安時代後期にさかのぼる阿弥陀如来立像ですが、本展で注目するのは近年この寺に寄進された約 30 軀くの仏像です。これらは、かつてひとりの実業家が収集した仏像で、南都伝来あるいはそうと推測される作品が少なくありません。興福寺こうふくじに伝来したとされる、いわゆる興福寺千体仏 20 軀をはじめ、明治 39 年（1906）に興福寺けいだいの境内で撮影された古写真（同寺蔵）のなかに姿が見出される地蔵菩薩立像じぞうぼさつりゅうざう、さらに鎌倉時代以降、南都を中心に広まりをみせた、いわゆる五髻文殊ごけいもんじゅの優品である文殊菩薩坐像ぼさつざざうなど、個性豊かな像を多くふくんでいます。

法徳寺の仏像群は、これまでその存在さえ認知されていなかった、いわば知られざる仏たちです。本展では、これら諸像を広く紹介するとともに、X 線 C T スキャン調査をはじめとした最新の調査成果もふまえて、その魅力に迫ります。

〔7〕公開講座

◆8 月 24 日（土）「近代を旅した仏たち—奈良ゆかりの仏像を中心に—」

山口 隆介（当館学芸部主任研究員）

時間：午後 1 時 30 分～3 時（開場午後 1 時）

会場：当館講堂

定員：194 名 聴講無料

※12 時から講堂前にて、入場整理券（お 1 人様につき 1 枚）を配布します。

※配布は講座開始 30 分後で終了します。

※入場整理券の受取の際には、観覧券もしくはその半券、奈良博プレミアムカード等をご提示ください。

[8] 出陳品一覧

	名称	員数	品質形状	時代
1	文殊菩薩坐像	1 軀	木造 彩色・截金	鎌倉時代（13 世紀）
2	観音菩薩立像	1 軀	銅造 鍍金	飛鳥時代（7～8 世紀）
3	如来坐像	1 軀	木造 古色	平安時代（10～11 世紀）
4	菩薩立像（興福寺千体仏）	20 軀	木造 彩色・截金・漆箔	平安時代（12 世紀）
5	飛天像	1 軀	木造 漆箔	平安時代（12 世紀）
6	持国天立像・増長天立像	2 軀	木造 彩色・截金	鎌倉時代（13 世紀）
7	地藏菩薩立像	1 軀	木造 古色	平安時代（11～12 世紀）

（いずれも奈良・法徳寺蔵）

[9] 問い合わせ先

奈良国立博物館 Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町 50（奈良公園内）

ハローダイヤル 050-5542-8600

ホームページ（URL）<https://www.narahaku.go.jp/>

〈交通案内〉近鉄奈良駅下車徒歩約 15 分

または J R 奈良・近鉄奈良駅から市内循環バス外回り「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

【主な出陳品】

1. ^{もんじゅ ぼ さつ ざ ぞう}文殊菩薩坐像 1 軀

木造 彩色・截金 像高 36.8cm

鎌倉時代（13 世紀）

奈良・法徳寺 [出陳番号 1]



南都を中心に信仰を集めた五髻を結う文殊菩薩で、春日若宮の本^{ご けい}地仏^{かす がわ かみ や ほん}の可能性もある。まとまりのよい作風は、善円^{ぜん えん}ら奈良を拠点に活動した仏師のそれに通じる。左足先は後補で、もとは踏み下げる姿だった。

2. ^{かんのん ぼ さつりゅうぞう}観音菩薩立像 1 軀

銅造 鍍金 像高 23.6cm

飛鳥時代（7～8 世紀）

奈良・法徳寺 [出陳番号 2]



頭上に化仏坐像^{け ぶつ ざ ぞう}を戴^{いた}く観音菩薩像。眉を連ねたりりしい顔立ちや伸びやかですらりとした姿態に特色がある。瓔珞^{ようらく}の一部を手にするしぐさは、島根・鰐^{がく}淵寺^{えん じ}観音菩薩立像に類例がみられる。日本画家・橋本関雪^{はしもと かん せつ}の旧蔵品。

3. ^{ぼ さつりゅうぞう}菩薩立像（興福寺千体仏）^{こうふく じ せんたいぶつ} 20 軀

木造 彩色・漆箔・截金

像高 [その 1～19] 35.5～39.8cm [その 20] 45.8cm

平安時代（12 世紀）

奈良・法徳寺 [出陳番号 4]

一般に「興福寺千体仏」の名で知られる菩薩立像。法徳寺には 20 軀が伝わる。平安時代後期の穏和な様式を基調とするが形式・作風ともに多様で、その 20 は節仏^{ふしぶつ}（節目の数で造られたとされる、やや大きめの像）と呼ばれる。



その 1



その 20



その 3

4. 持国天立像・増長天立像 2 軀

木造 彩色・截金

像高 [持国天] 54.3cm [増長天] 52.5cm

鎌倉時代 (13 世紀)

奈良・法徳寺 [出陳番号 6]

鎌倉時代に再興された東大寺大仏殿四天王像のうち、持国天・増長天と形姿や身色が一致する。四天王像の 2 軀が残ったものの可能性もある。彩色に截金と描線等の盛上げを交えた文様もみどころ。



増長天立像



持国天立像

5. 地藏菩薩立像 1 軀

木造 古色 像高 95.5cm

平安時代 (11~12 世紀)

奈良・法徳寺 [出陳番号 7]

奈良・興福寺に伝来した像で、明治時代末以降の所有者の変遷を比較的詳しくたどることができる。両目の見開きが大きい明瞭な顔立ちや、肩幅の広い充実した体つき、柔らかな衣文は仏師 定 朝 の作風を踏襲する。

